

シリーズ 市民委員会活動

平成十年度からスタートした市民委員会は、五団体が認定されました。それぞれの市民委員会は、市民の視点で各分野で活発に活動していただき、すばらしい提言・報告をいただきました。活動内容について、今回から五回のシリーズで概要を紹介させていただきます。

「子どもの遊び」

研究委員会

かつて、子どもたちは遊びの天才であり、遊びの偉大な発明家でした。自然を相手に全身全霊を傾けることによって自分を知り、人の心を思いやり、自然に対する畏敬の念を培い、そしてそれらを糧にして成長していきました。

子どもたちが遊びに夢中になるのは、自発性、自由性、創造性、非現実性などの遊びの特質が自分たちの欲求を十分に満足させてくれるからであり、子どもたちは、遊びを通して仲間を得、つきあひ方を身につけます。そして、他人の考えに共感したり話し合ったりするなかで、相手の立場を認めながら自分を生かすという、社会生活における人間関係の基礎を身につけていきます。

しかし、最近「遊べない」「遊ばない」「遊びを知らない」子どもたちが増え、遊びの様変わりが

指摘されています。研究会では、遊びの様変わりを調査し、「孫・子に伝えたい遊び」を取りまとめ、子どもたちの成長・発達と遊びのかかわりや遊びと人格形成上の意義について考察を行いました。

「遊び」から学ぶもの

子どもたちが無心になって遊ぶとき、そこには子どもたちだけの世界があり、それは人間の精神の芽生える土壌ともいえます。土壌がつかられなければ、葉も花も育ちません。子どもたちが無心に遊ぶとき、子どもたちの心は広く大きな宇宙に向かって開かれているのです。子どもたちが「遊び」からどのような能力や特性を身につけていくか分析すると、

1 社会性を育てます
集団遊びの中で、子どもたちは自然にルールの厳しさを、他者への

思いやり、友情、責任感、自己犠牲の大切さなどを身につけていきます。子どもたちが社会性を身につけるためには、活動的で勇氣と決断を必要とする集団遊びが必要です。

2 体力や運動神経の発達に役立ちます

幼児期から小学生の時期の子どもたちは、戸外で穴を掘ったり、石ころをならべたり、ひもを結ぶという単純な遊びに熱中します。また、ビー玉、めんこ、コマ、お弾き、お手玉、折り紙、あやとりなど、昔から子どもたちの世界に伝承されている遊びも比較的好みます。これらの遊びは、手先や足先の器用さ、運動感覚の鍛練に結びつくものばかりです。鬼ごっこで走り回ってへとへとになっていても、鬼が追いかけてくれば、また、全力で逃げなければなりません。そうして夢中になって遊んでいるうちに、運動神経を発達させ、体力を養い、健康を増進させていきます。

3 創造性を高めます

草花で首飾りを作ったり、笹や木の葉で船を作って浮かべてみたり、若葉で音を出したり、木の実や貝で人形を作ったりと、自然はそのまま子どもたちの創造的な遊び道具になります。自然の中から遊ぶ材料を探したり自分たちの手で遊び道具を作ったりして自然

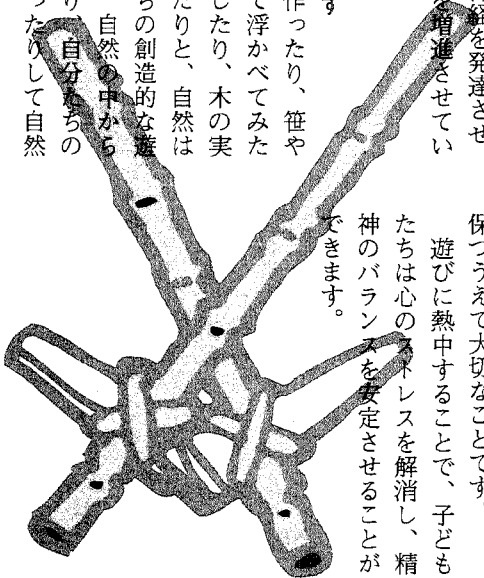
を相手に遊んでいるうちに、豊かな創造力が育っていきます。

4 知的能力を伸ばします

例えばごっこ遊びをする中で、ことばの使い方や計算を覚えたり、かるたとりやトランプ遊びで文字や数字を覚えたりします。このように、子どもたちは遊びを通して日常生活での体験の範囲が拡大され、いろいろな知識が身につく、理解力、推理力、思考力などが芽生えていきます。そして、それら様々な経験が有機的に広がっていき、自然と知的能力が育まれていきます。

5 心を解放します

子どもたちは、日ごろの生活の中で、いろいろな情緒や欲求によって抑圧されています。こうした子どもたちの欲求不満や緊張や心的葛藤などを解消し、心のバランスを取り戻すことは心身を健康に保つうえで大切なことです。遊びに熱中することで、子どもたちは心のストレスを解消し、精神のバランスを安定させることができます。



「遊び」を活発にするためには、家庭と地域社会の協力が不可欠です。今回、孫・子どもに伝えたい遊びとして、二十七種類の代表的な伝承遊びを、図などにより紹介した冊子を作成しました。地域の指導者で興味をもたれる方がいらっしやいましたらご連絡ください。



平成11年度 市民委員会募集

市では、平成十一年度の市民委員会として活動したい、団体・グループを募集しています。具体的な活動・施策に関しての調査・研究など、積極的に市民の皆さんに参加していただく良い機会となるものと思います。活動に係わる経費の全額を補助させていただきます。
(限度額30万円)

ぜひこの活動にご参加ください。

問合先 政策形成課 政策担当